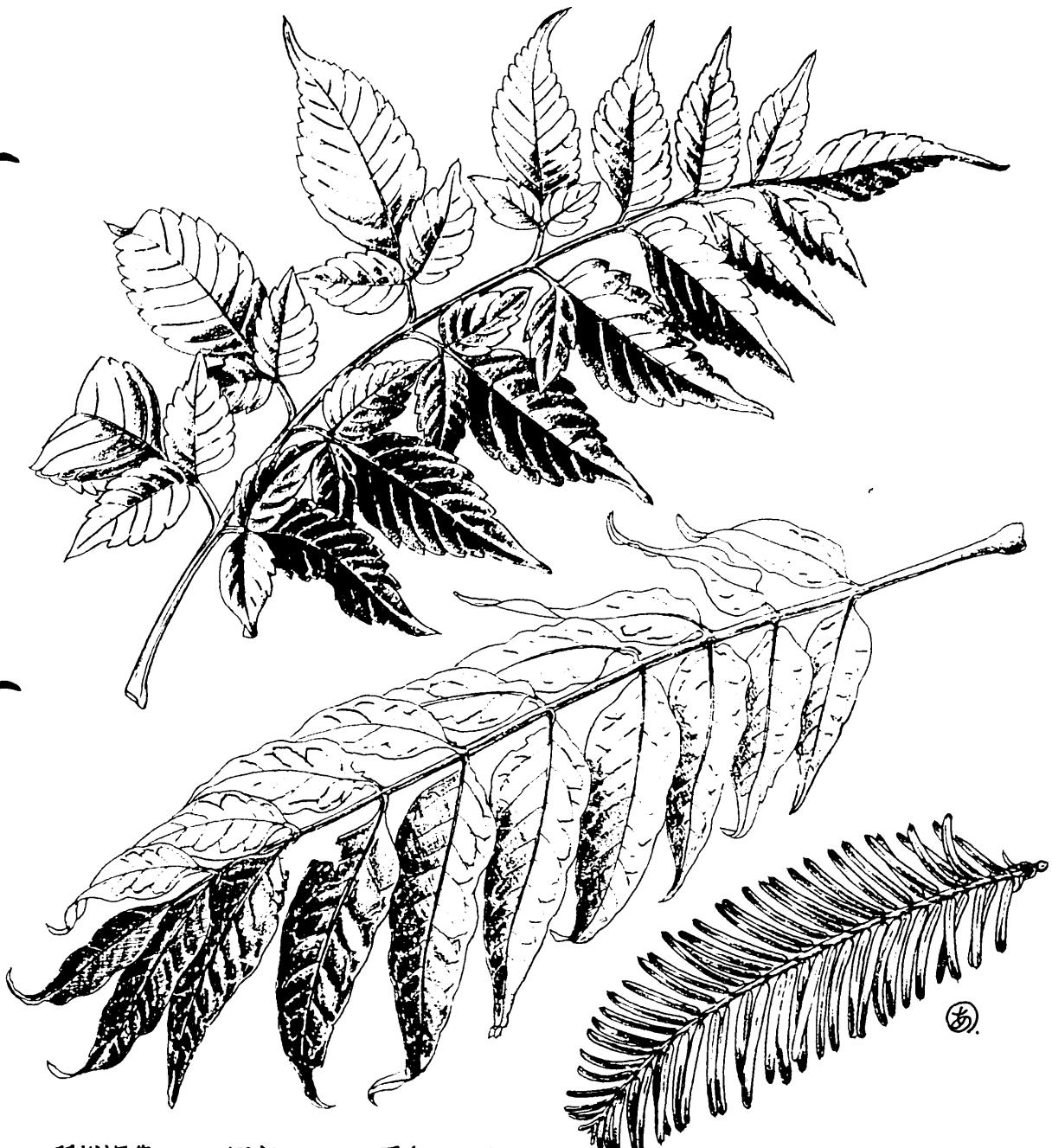


協議会ニュース

66号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1998. 1



○羽状複葉ってよく観察するととても面白いですね。
実に個性的です。対生なのに互生に見えたたりして…

‘97-11月“名古屋城の樹木”より

〔話題の地見学会結果〕

里山の管理について

「話題の地見学会」の9年度第2回目として、11月3日に名古屋市天白区の相生山緑地を11名の参加者で見学しました。最近は、里山に関する話題がよく聞かれ、全国各地で行政による雑木林の園地化や、市民活動としての管理が増えています。この相生山も、名古屋市がオアシスの森として、市民参加による里山の管理を行っている場所で、里山のあり方について考えてみたかったため実施したものです。

協議会としては、来年も里山のあり方についてシリーズ観察会や研究会で取り上げて検討し、何にらかの形でまとめたいと思っています。事務局では皆様方のご意見をお待ちしています

● ● ● ● ●

1 当日の状況

コナラ林、尾根のマツ林、オアシスの森として作業された林の3カ所で、林の状況と管理の仕方について意見交換しました。

コナラ林は感じの良い林で、ヒメボタルも生息している場所です。時間の目で判断した結果、コナラが20~30年生であることから、昭和20~30年頃は禿げ山、昭和30~50年頃はマツを主とした林でその後コナラ林になったと考えられます。しかし、ヤツデ・シユロ・エンジュ・モミジが入っていることから人為の影響も考えられます。中木の少ない林で、現在はこのままでも良いように見受けられますが、低木に常緑樹が多くなっていることから、コナラ林として維持するためにはそれを一部伐採することも必要なようです。ただ、ヒメボタルなどに配慮して、林床を荒らさない

いようにするとともに、あまり日光がはいらないようにすることが大切のように思いました。

尾根のアカマツ林は、痩せ地に成立した背の低いもので、一部に竹が入り込んでいます。常緑樹が多くなって地面に草が生えなくならないように、またマツを残すように手を入れた部分もあります。このような場所で大切なことは、土砂流出防止や土壤の保持などの治山的な機能を重視することで、やたらに木を伐採しない方が良いように見えました。しかし、藪がひどくなつて、草がなくなると土砂が流れ易くなる心配もあり、その対応が難しい気がしました。こうした痩せ地では遷移もそんなに急には進まないと思われる所以、じっくり検討しながら作業を考えればよいでしょう。こうした場所の遷移がどのように進むか定点観測などの資料集めも大切なようです。

最後に、オアシスの森として作業したコナラ林を見ましたが、側に手の入っていない藪の繁ったような密生したアカマツ林があるのが好対照でした。この夏に伐採したもので、コナラの高木を残して低木はほとんど伐ってあり、林床まで明るく、ソヨゴ・ヤマウルシなどの芽生えが見られます。薪炭林のイメージで伐採したもので今後どのような林になるか見守りたいとのことでした。隣のアカマツ林のように常緑樹が多くなって林床が裸になるのを防ぐ意味で管理は必要に見えますが、低木をほとんど伐ってしまうことは非、ここに生息する昆虫や動物をどう考えるかの課題はあるようです。人の好む林は、明るくて低木が少ない開放的なもので、近藤さんの文にもあるように、作業をしているとつい木を伐

り過ぎる傾向もあります。そうした部分もあってよいでしょうが、緑地全体の有り方の考えた計画も必要と思われます。

2 里山の管理について

里山という言葉が最近よく聞かれるようになりましたが、その定義は案外難しいようです。薪炭林として人が伐採した林はかなり奥地にまで及んでいますし、山菜取りでも地域によってはかなり山奥まで入っています。また、身近な人里近くのいわゆる裏山とするなら範囲は相当限定されます。ただ、愛知県のようなかなり山奥にまで集落が入り込んでいる地域では、相当な地域が里山として見られるかもしれません。

こうした里山は、従来人の生活との係わりの中で維持されてきたものが、生活の自然離れにより、放置されてきました。マツクイムシの広がりもあって、林が荒れたようになってきたことと最近の自然志向が合わさって、里山に目が向けられるようになってきたものです。総会での講演にあったように大阪では市民運動として里山を管理するグループが増え、名古屋市や愛知県でもそれを見習った里山管理の事業が進められていますし、他府県にも似たような事例が増えつつあります。

こうした里やま管理の方向について、何に配慮すべきか、少し考えてみたいと思います。

里山の特徴としては、古くから人との係わりの中で成立した林であるため、コナラ・アカマツなどの二次林が中心で、一部シイ・カシの常緑樹も社寺林として含まれています。この林には、農耕地や用水路、草刈り場などが合わさって、多様な生物の生息地となっています。また、愛知県周辺では里山の中に湿地などの貴重な植生が残されており、シデコブシ・モンゴリナラなどの地域の特徴を示す植物も自生し、オオタカなど絶滅の恐れのある動物も生息しています。また、里山も水源かん養、土砂流出防止など生活基盤を守るため

の機能を果たしている森林でもあります。こうした里山の特徴を頭において、その管理を進める必要があると思われます。

初めに考えるべきことは、なぜ林を管理するかという目的意識を持つことと思われます。二次林を放置すると森林の遷移によって、シイやカシの常緑樹林になるとされていますが、実際の遷移はそう単純ではなく、植生や土壤により複雑なようです。カシなどが入らずにソヨゴやサカキの林になってしまう例もあります。従って、管理に際してはその林の遷移の方向を見極める必要があります。放置すればどのような林になるか、それをどのような林にするかを考えて、伐採や補植を行うことが、少なくとも指導者には求められると思います。そのためには、予め植生調査なども実施して、管理の状況を把握することが大切でしょう。すべての里山管理にあまり厳密なことを要求するのは無理かもしれませんし、市民が楽しむだけの行事もあってよいでしょうが、里山も残された貴重な自然であることを思えば、少なくとも広範囲な管理を行うときは慎重に進めたいものです。

次に、森林は人間だけのものでなく、そこに住む生物のものでもあることを忘れないようしたいものです。枯れ木や腐った木でもそこだけに生活する生物はいますし、野鳥などの繁殖場所を残す配慮もいるでしょう。多くの生物が生息できることは、多くの種類の植物が自生していることでもあります。特に、林床は植物や動物にとって大切な場所でもあります。

次に、里山管理の対象地に貴重な植生や動植物の生息がある場合は、当然ながらそれに配慮するとともに、土砂流出や水源かん養などの機能上大切な部分は、その機能を維持するようにする必要があるでしょう。従って、実施する前には十分な調査が必要になってきます。とりあえず、基本的なことのみまとめました。

相生山柴刈り大会

近藤記巳子

相生山緑地との出会いは、徳林寺の花まつりである。東南アジアの絵画や民芸品の展示もあるいう案内にひかれて出かけた。寺の境内の延長線上に、緑地が広がっていた。四季折々、縦横無尽に歩きまわった。相生山を知れば知るほど、深いみどりの区域が、名古屋市内に残されていることが驚きだった。その後、自然観察の楽しみを知り、さて、フィールドは……と考えたときに真っ先にうかんだのが相生山緑地だった。

平成3年12月、相生山緑地自然観察会スタート。観察会で定期的に相生山を歩くようになり、木々の生い茂る薄暗い場所や、あれた竹林が気になった。散乱するゴミや、あきらかに車で運んできたと思われるゴミの山にも心が痛んだ。

雑木林研究会のメンバーであり、名古屋市農政緑地局の小池さんから、相生山緑地の柴刈り大会のお話をいただいた時、そんな経緯もあって、第1回目より関心をもって参加させていただいた。（第1回は、1996.3.16）

林業体験は、奥三河の森林で2日間ではあるが、経験していた。作業のイメージもほぼつかんでいるつもりだった。だが、実際に相生山緑地で柴刈り大会をしてみて、奥三河の体験と、ずいぶん違うものを感じた。相生山での作業は、とにかく快適だった。その違いはなぜ……と考えた。人工林と雑木林の違いだ。

人工林は、樹木の高さも太さも大差なく、ヒノキやスギが当り一面、すくっと並んでいる。間伐の目的は、良質の木材を得るために樹木の育成ーという単純さである。かたや、雑木林は、アカマツ・ヒサカキの常緑樹もあれば、コナラ、タカノツメ、ヤマコウバシ等の落葉樹もある。高さも樹形もまちまちで、それぞれ個性がある。雑木林の間伐の目的は

あかるくやすらぎのある空間づくりのため、花木を育成するため、安心感のあるルートづくりのため……とさまざまだ。その目的のために一定量の作業をすれば、明らかにその場が変化する。目にしっかりと見える作業結果は、（ある一定期間、あるいは何年か時をようするものもある）喜びだ。快感だ。あれこれメンバーと話合いながらする作業のプロセスも含めて、雑木林の柴刈りのおもしろさだろう。

相生山での柴刈りが、3回、4回と会を重ねた時、雑木林研究会の豊島さんから、どきりとする指摘を受けた。

「近藤さん、最近、木の伐り方が、大胆ですよね。1回目の時なんか、この木はどうの、あの木はどうのって、伐るのをストップする発言をしていたもんね。」林先生がさらに言われた。「そうそう、アオハダの枝を伐った時は、樹液のことをアオハダの涙だと言っていたね。」

たしかに、最初の頃、ずいぶん感傷的になつたし、ためらった。いつのまにか、慣れで作業をしていたようだ。今、あらためて想う。最初の頃のためらいを忘れないでいたい、と。一本の木を伐るのに、その木の生きていた年月や、その木をめぐる生き物たちの命に想いをはせる気持ちを大切にしたい。一本、一本とむかいかい、見つめあい、言葉のない会話をしながら、相生山緑地がより良い雑木林になれば……と思う。

相生山緑地での柴刈り作業は、私にとって自然観察やネーチャーゲームのフィールドとしての活用とは、全く違うアングルから「自然」を見る、「自然」を感じる、貴重な体験となった。この体験は、今後の活動のなかで、社会に還元していきたい。

相生山緑地で、さらに多くの人々の和がひろがることを願う。

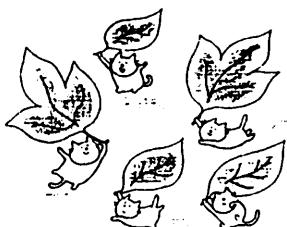
（この文は、「雑木林研究」に掲載されたものを使いました。）

自然観察指導員の環境教育

篠田陽作（名古屋支部）

数年前から環境教育と言う言葉が頻繁に使われるようになり、最近は議論から実践に移りつつありますが、環境教育に携わるのに一番近い位置に居る自然観察指導員の環境教育に対する認識や勉強が余りにも足りないような気がします。中には個人的にしっかりと学習をされていて的確な対応をされている指導員もみえますが、全体からみればそれらの人はごく少数であると思います。

愛知県自然観察指導員連絡協議会としての環境教育を研究や学習する具体的なワーキンググループを設置して、各支部ごとの勉強会や協議会としてのプログラムの作成等を考える時期に来ているのではないかと思う。



環境教育は自然観察に近い位置にあるものの、自然観察とは、やはり基本的に違うと思います。私たち自然観察指導員はその辺の違いと共通部分の確認や私たちのノウハウの使える物は何かを学習することが必要だと思います。中途半端な自然観察の知識や思い込みで環境教育を手掛けるのはやはり謹むべきだと思います。最近は環境教育関係の書物も多く発行されています。しかし、それらは自然観察指導員が行う環境教育についてではなく、学校の先生や保母さん等に対するものが多く、自然に対する幾らかの知識や認識の有る自然観察指導員の行う環境教育はやはり自分達の手で独自の物を作りたいものですね。

現在協議会の部会は運営部会、普及部会、調査部会、編集部会が在りますが、ここに環境教育部会等を一つ加えるのも好いのではないかでしょうか。現在色々な組織やグループが環境教育に取り組んでいますが、一番環境教育に適任なのは自然観察指導員だと私は思います。しかし、一番立ち遅れているのが自然観察指導員ではないでしょうか。協議会や支部で出来なければせめて有志で勉強会を開くなどしても環境教育に本格的に取り組みたいのですね。

今環境教育に対する世間のニーズは高まりつつあります。しかしその要望に適確に答えられる環境教育の専門家は余りにも不足しています。そのニーズに答えるために私たちは一日も早く勉強を始めたいですね。皆さんの協力で協議会の中に環境教育部会を作りませんか。事務局にも働き掛けてみたいので、関心のある方は私までご連絡ください。



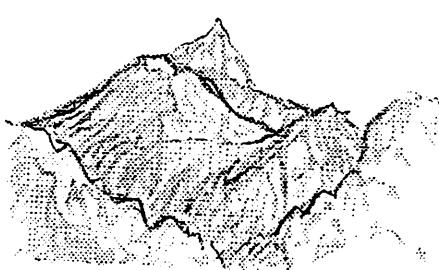
環境教育ネット東海の紹介

代表幹事 山田博一

5年ほど前から、協議会の中に環境教育の研究会を設けたのが契機となって、「環境教育ネット東海」という会ができています。今年は、講習会で新しい会員が増えたので、この会の今までの動きについて紹介してみます。関心のある方は私までご連絡ください。

(1) 会の目的

- ①環境に関する正しい知識を深め、環境を守る心を育てるために、必要な知識、情報を収集して検討したり、発信したりする。
- ②愛知県自然観察指導員連絡協議会が、16年前より実践してきた五感を使った自然観察運動を、一過性のものにせず、過去からの蓄積を記録し、体系づけて、今後の環境教育に役立てていく。
- ③環境教育を学校教育だけに偏らないようにし、できるだけ民間・主婦・行政・水族館から広く人材を集め、情報を仕入れ、広く市民に対応できるようにする。
- ④環境教育を一時的なものとせずに、一生を通して継続できるように、いろいろな活動と密接に連絡をとりあい、情報の収集と発信を行う。
- ⑤環境教育を目的に設定した自然観察会を行う。



(2) 会の歩み

- 1992年 9月 愛知県自然観察指導員連絡協議会に環境教育研究会が発足
- 1993年 2月 第1回環境教育研究会で高藏寺ニュータウンのどんぐり作戦を取上げ朝日新聞(2月21日)に紹介される。
- 1994年12月 この年より偶数月に定期的に名古屋市教育館で研究会を行うのが定着する。(環境教育は日本文化を見つめなおす活動と位置づけ、教員だけでなく、自営業・民間・退職者・主婦・行政・水族館などいろいろな職種のメンバーが集まる。)
- 1995年 2月 愛知県自然観察指導員連絡協議会の指導員に「環境教育についての考え方と実践」のアンケートを実施してまとめる。
- 1996年 4月 環境教育研究会の名称を、「環境教育ネット東海」とし、東海3県の環境教育に携わる団体との情報交換を行い、フォーラムの準備を開始する。
- 1996年 6月 第1回のフォーラム「絵本と童謡による環境教育」を行い、愛知県と岐阜県の保育所で行った絵本のアンケートのまとめ、幼児期に、環境教育を行う教材である童謡と絵本を、自然体験の関わりから取上げる。
- 1996年12月 「環境教育ネット東海」の総会により、規約・事業計画・予算の制定を行う。また、代表幹事に山田博一、副代表幹事に佐藤国彦氏を選出。

1997年 2月 第1回自主講座「御嵩の産業廃棄物処分場が木曾川水系に及ぼす影響を考える」を行い、正確なデータをもとに、産業廃棄物問題は、単に御嵩町の地域の問題ではなく、木曾川水系 500万人の水源汚染問題ととらえ、ダイオキシン問題や資源循環型社会を考える。

1997年 3月 御嵩の産業廃棄物処分場予定地である小和沢地区で自然観察会を行い、朝日新聞(4月4日付)に紹介される。

1997年 5月 環境教育ネット東海は、全国環境教育ネットワーク(事務局は広島顧問に沖縄大学 宇井純氏)との連携を開始する。

1997年 6月 三重大学の大学祭に招待されエコリーグとともに「えことーく」を行う。

1997年 7月 “地球家族”という題材を使って、フォトランゲージという手法を用いた「国際理解教育」からの環境教育を名古屋で初めて行う。

1997年 9月 愛知県立大学でP.L.T (Project Learning Tree)を行う。

P.L.T : 1974アメリカ森林研究所が開始した99のアクティビティからなるプロジェクトで、各方面の主張を織り込む。

(3) 資料について

現在、「全国環境教育ネットワーク」と「エネルギー環境情報センター」の連絡窓口になっているので、その組織に関する資料があります。また、今まで本会が活動してきた中の環境教育に関する資料も大量にあります。その資料や情報も機会があれば紹介したいと思います。

(4) 問い合せ先

山山博一

住所: 岐阜県可児市光陽台5丁目62番地

TEL: 0574-65-1541



==== 自然にかとアンケート 4 ====

観察会で困ったこと、失敗談

前回の機関誌(65号)で募集しました『自然にかとアンケート』の第4回は「観察会で困ったこと、失敗談」でした。

観察会では誰しも予想外の事態などに困ったことがあるのではないかでしょう。特に初めのうちは緊張でとまどうこともあろうかと思いまます。そんな時、先輩の指導員方はどのように対処されているのでしょうか。

もちろん、できるだけの準備は必要でしょうが、自然を相手にするということは、人間を相手にするのとは違うですから思いがけないことが生じるのがあたりまえであって、経験を積み重ねていくことが大切に思えます。

6名の方からアンケートに答えていただきましたので、次に紹介します。

クモが釣れない

相羽福松（知多支部）

これは、自然観察会での失敗談。

ある秋の十月下旬のこと。今日は、みどりの少年団交流会の自然観察会があるので、朝から張り切っていた。かねて読んだことのある雑誌のクモ釣りをやってみようと、糸をつけた竹竿を用意して持っていたのであるが。

さて本番。子供十数人を受け持ち自然を観察しながら山道を歩いていくと、木陰にクモの巣があり、大きな雌のジョロウグモが居座っていた。クモの習性の話をしながら「この竿で釣ってみましょう。さて、どうなるでしょうか」と言って、チカラシバの実を糸でしばって、ヒヨイッと竿を振り、草の餌を網にかけてみた。

ところが、クモは少しも動かないし、餌にとびかかってこない。二、三回やってみたが何の反応もない。子供にもやらせたが、ぜんぜん釣れないのである。こんなはずではなかった。先日、家の庭でヒヨイッヒヨイッと練習したときは、餌と間違えて面白く釣れたのに。

子供たちは、つまらなさそうに見ているだけで、「何だ、釣れないじゃないか」と、馬鹿にしだした者もある。私は、気まずくなつて「このクモはおなかが満腹で、もう餌がいらないのだよ」とギャグを言って、ごまかしてしまった。

後で考えてみると、以外と寒い日だったので動きがぶくなつた影響かと思うが、大失敗は後の祭りであった。



間瀬美子（東三河支部）

ウォークラリー形式を取り入れ、案内人抜きのポイント制で観察会をやってみたら・・・

地図もコース標識も分かりやすく作ったはずだったのに、コースは外れるわ、グループはばらけるわで大変。

参加者の感想「ちゃんと案内して説明してほしい！」

身近にあるフツーの自然の中から主体的に何かを感じ取ってもらいたいという思いと、有名観察地をじっくり見たいという思いがすれ違ってしまったようだ。ガイド無しはちょっと無理だったか。

でも、やっぱり教える観察会ではなく、皆で考える観察会にしたい。



定光寺観察会で困ったこと

大谷敏和（尾張支部）

- 1 参加人数が何人来るかわからず、当日子どもの数が多く、大人（一般）を放ったらかしにした。
- 2 年間計画の中で「キノコをみよう」とか「シイの実を食べよう」とうたったが、今年は雨が降らず、予想外で、参加者も期待外れ。
- 3 はじめての参加者には集合場所がわかりにくい。
- 4 地域によって大雨が降っていて、「雨でもやるんですか」の意味がわからなかった。
- 5 予定したコースを思いがけない見せ場で迷れ、まわれず、計画とは違った観察会になってしまった。

浅井聰司（名古屋支部）

指導員をはじめて今年で12年目になります。その間、数多くの失敗を重ねてきました。失敗することに反省させられ、対処法を学ぶことができました。その方法を2、3あげてみます。会員のみなさんにお役にたてば幸いです。

◇失敗その1 ハチにさされた。（危険な動物への対処）

ハチをみかけたら、周りに注意し、巣があるかないか確かめる。巣の近くであったら、すぐに退散する。ハチがこちらに向かってくるようであったら、じっとして、ハチが遠ざかるのを待つ。下手にふりまわしてはいけない。参加者の前で殺すのは、いけない。（自然保護の精神を疑われる所以）しかし、万一刺された場合に備えて、ステロイド軟膏と抗ヒスタミン軟膏を携帯しておくとよい。

◇失敗その2 子どもが関心をしめさない。

子どもに対して、知識で物を言つてはならない。「きたないからダメ」「あぶないからダメ」「食べれない」とか自然に対する偏見的な先入観をうつづけてしまうことになる。子どもの観察力を信頼してあげる。子どもが興味を示すものを指導員もじっくりと観察することが必要です。

◇失敗その3 道をまちがえる。説明をまちがえる。時季がはずれる。

原因は下準備がたりない。観察テーマがワシパターンになってしまふためである。観察会をするときには下見は欠かせないものである。メモをとり、調べるなど熟知しておくこと。日頃の努力をおこたりないようとする。

しかし、何年づけても何回やっても、必ずひとつは発見があります。好奇心を持ちづけることを忘れないようにしたいものです。



柴田美子（名古屋支部）

8月は夏休みとあって、子どもたちの参加があるだろうと、当日糖蜜を準備して出かけた。ところが、子どもたちの参加はゼロ。しかも、樹液洒場を開店したものの虫たちは来ず。おまけに、大人の参加者には関心を持って貰えず、樹液に集まる虫の観察は散々。

ただし、その日は、もう一つゲーム感覚で、虫、虫食い葉、木や草の実、キノコ、ゴミを探し絵を絵がいてもらい、盛りあがったが。

教訓

- ・いつでもどこでも糖蜜をねれば虫が集まると思い込まず、前もって実験をすること。
- ・観察すべきものがなかった（いなかった）場合は、その場で臨機応変できる余裕と知識を持つこと。ただし、失敗した原因を考え、反省は必要。また、プログラムにこだわらないこと。

K生涯教育センターの観察会の助手を引き受けた。当日は、生憎の台風が接近。主催者側から観察会は中止し、センター内でこれまでのまとめをする、との連絡が入った。

しかし、リーダーは朝から現地へ出かけ、連絡が取れずじまいでの日は終わってしまった。4回シリーズの最終回。それまで出席してなかったので困ってしまった。

山原勇雄（西三河支部）

観察会で困った事とか、失敗談!!特にありません。自然を観る観察会であまり苦心する事はよくないと思います。気楽な気持ちで参加者とやりとりする事が大切じゃないですか!!

平戸橋自然観察会では毎回（1回／月）ちっぽけな資料を作成していますが、毎回となると「ネタ」切れですが、それでも何とか欠かさず作ってます。これでよしで頑張りましょう。

日本人と自然 (3)

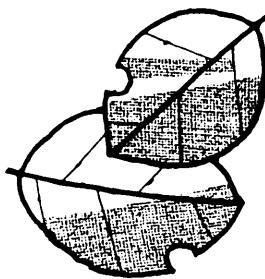
佐藤国彦（名古屋支部）

田山花袋が、回想文の中で次のようなことを書いている。「外国から入ってくる文化はまるで洪水か何ぞのやうであった。唯、無暗に流れ込んできた。流れ込みさへすれば好いというやうに流れ込んできた。」

明治は日本文化と西欧文化との葛藤の時代であり、さらに東洋な文化を離れ、西洋文化に染まり始めた時代である。この西洋文化の流入は、技術や社会制度などとともに今まで日本になかった新しい見方や考え方をもたらした。そして、これは自然の見方についても大きな変化をもたらすこととなった。

ラフカディオ・ハーンの隨筆の中に、私の好きな次のような文がある。「日本固有の美しいもののなかでも、最も美しいものは、どこか小高い場所にある、神社とか休み場所などへ行くまでの途中の道——つまり、べつにどこのどこそこと名のある場所へ行くのではなく、行ったところでべつに大した物もない場所へ登る、そういう途中の道とか、石段など、——これがまことに美しい。」〔旅日記から〕今まで、美しい所といえば名所旧跡といわれるような場所と考えていた日本人に、何気無い普通の景色にも日本的な美しさがあると気付かせてくれたのが、新しく流入してきた西洋文化である。

明治24年に志賀重昂が出した「日本風景論」



によれば、日本の風景の優れた点は、海流の多様なこと、水蒸気の多量なこと、火山の多々あること、流水の浸食の激烈なことによるものと

している。このことは、今ではそれほどのことと思われないのだが、当時としては近代的な自然美の追求であって、これが多くの人の関心を引きつけ、しかもこの本には日本各地の山岳を多く紹介したことで、日本アルプスなどに登る者が増加している。

こうした新しい自然観は、山岳に限らず、田園や森など身近な自然を対象として広り、いろいろな面から日本の自然の美しさを発見させることになった。近世においても、芭蕉や蘆村のように自然の風物の美しさを詠った例もあるが、その後は、雪月花とか花鳥風月のような象徴的な固定概念としての自然の捉え方しかなかったものが、新たに西欧的な自然観を加味して、生きた自然美が理解されるようになってきたと言える。徳富蘆花の「自然と人生」や国木田独歩の「武藏野」のような自然を主題とした文学作品も生まれ、明治時代の後半には多くの芸術作品が自然を生きた材料として活用し、消化するようになっている。

明治の初めに生まれた新体詩は、当初はお粗末なものであったが、藤村などの時代には、完全に日本の詩として自然の美しさを高らかに詠うようになり、俳句や短歌についても、過去の伝統に写生を基とした近代的な数多くの優れた作品が作られ、さらに日本画や西洋画などの絵画も西洋の技法などを取り入れて数多くの日本の美を生み出したと私は思う。

このように明治後半から大正にかけて、多くの優れた芸術が花を開かせ、新たな自然の美しさを発見させたのは、東洋文化に深い造詣を持ちつつ、西洋的な自我の自覚めとか、近代的知性を自己のものとした知識人の輩出

によるものである。新しい知性と自我のもとで日本的な精神と西洋的な文化の融和や葛藤があって、新しい芸術の創造が各部門でなされたのである。

そして、その背景として重要なことは、そこに豊かで美しい日本の自然があったことである。新しい西洋文化が流れ込んできた時に、この日本には繊細で美しい自然と、その中で貧しくはあっても昔からの伝統を大切に守って生活していた日本人の姿があったことである。

再びラフカディオ・ハーンが日本の自然について書いている言葉を引用すると、「日本の国では、どうしてこんなに樹木が美しいのだろう。西洋では桜や梅が咲いても格別に驚くほどこのことはないが、日本においてはそれが全く驚くほどの美の奇跡になる。（中略）ひょっとしたら、この神ながらの国では、樹木は遠い昔から、この国土に培われ、人にいたわられ愛されてきたので、ついには樹木にも魂が入って、あたかも、男に愛された女が、男のために一層みずからを美しくするやうに、樹木もまた心を入れてお礼心をあらわすものだろうか。」

江戸時代の終りから人口の増加や産業の発展により場所によっては禿げ山の増加など荒れた地域も増えてはいたが、全体としては人は自然とともに生き、自然は人との係わりの中で豊かさを保っていたと思われる。日本の自然の美しさは、気候や地形などの要因とともに、そこに生活している人々の暮らししぶりからくるものも大きいと思のではないか。ラフカディオ・ハーンの言葉にもあるように、人の生活が自然とともにあり、自然を大切にしてきたことが、美しい自然景観を存在させてきたのである。

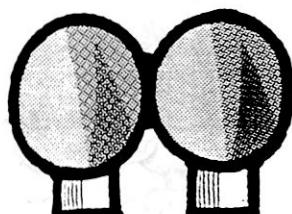
私も30数年前から山登りとともに各地をよく歩き回ったものであるが、古くからある集落や建物は、その土地の自然景観や風土とよく調和を保っていたように思う。登山に際し

ても、中腹以上の自然の良さを味わうだけでなく、山麓に住む人々の生活のたたずまいを見るのも楽しかった覚えである。社寺のような大きな建物でも、周囲の自然と調和を持った建て方がしてあり、これは建築資材が木であるだけでなく、日本人の感性でもあったのであろう。それとともに、各地に多様な風俗や民話、俗謡などが残されていたことも無視できない。明治時代に新しい芸術などが花開いたのも、こうした土台の上に流れ込んできた西洋の文化がうまく調和したことによると思われる。

黒船以来、西洋の文明と力は日本人を恐れさせ、それに対抗すべく新しい技術の導入が図られたが、当時の技術はまだ日本の自然をそれほど脅かすものではなかった。日本的な自然の美しさや風俗は、変容しながらも、大戦までは残されていたと言えよう。しかしながら、近年では革新する技術によって、産業形態から生活形態まで大きな変化が進み、それとともに各地の自然は不要のものとして見捨てられ、身近な自然も変化してきた。失われたのは自然だけでなく、今の子どもたちの生活を見ればわかるように、人と自然との係わりまでが乏しくなってきた。それが現代の日本の姿ではなかろうか。

文化は、そこに済む人々の生活の有様にくわえて、環境としての自然の果たす役割が大きいと思われるが、今まで日本人を育ててきた自然が失われてしまったなら、これから日本の文化は何を拠所とするのだろうか。先に引用したラフカディオ・ハーンの言う日本の樹木が、これからも日本人を愛してくれるよう私たちも考えなくてはならないだろう。

（了）



新入会員紹介

平成9年10月10日～12日に鳳来町県民の森で行われました自然観察指導員講習会で、新しく50名の方が協議会に加入されました。

* * * * *

酒向千歳（奥三河支部）

私は、鳳来町立鳳来寺自然科学博物館に勤務しています。博物館に異動して2年目になります。

今回、自然観察指導員講習会を受講して、自然への心を向けることの大切さを改めて痛感しました。

○会へのメッセージ

自然について一から勉強していきたいと思いますので、色々アドバイスをお願いします。

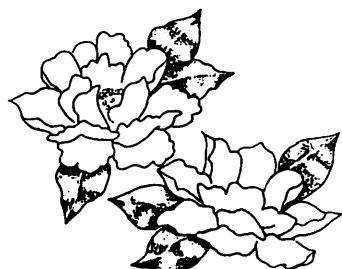
○近況

鳳来寺山の紅葉も少しづつ色づいてきました。11月中旬が見頃です。是非おいでください。これからも、色々お世話になりますのでよろしくお願い致します。

三尾由加（名古屋支部）

はじめまして、三尾と申します。現在、名古屋市の小さなクリニックで受付けをしています。自然が大好きですがわからないことばかりです。人前に立って説明する場合など、とても上ってしまい、しどろもどろになってしまいます。

皆さま、どうぞよろしくお願い致します。



岡崎孝美（尾張支部）

今度新しく指導員として登録された岡崎です。思えば8年前、夫の転勤で関西からこちらに来た頃は、自然観察などまるっきり縁のなかった私ですが、知人に誘われ、ものみ山自然観察会に参加したのがきっかけとなり、あちらこちらの観察会に参加するようになりました。私にとっては観察会はとにかく楽しい！まだまだ未熟で自然のことはわからないことだらけだけれども、同じ場所に何度も足を運んでもそれぞれに違い、その度に新しい発見があり、楽しくて仕方がないのです。でも楽しいだけに終わってしまっては指導員になった意味がない。自然に触れる楽しさ、大切さを、未熟でも自分なりに誰かひとりにでも伝えていく為に試行錯誤しなければならないでしょう。「ローマは一日にして為らず」先輩の皆様方、よろしく御教授の程お願いします。



板倉隆彦（知多支部）

今回新しく会員になりました板倉です。

年齢51歳。妻と子供2人と犬1匹の家族構成です。

先日の講習会では今までの自分の自然に対する接し方とは一味違う関わり方が有ることを教えられました。また、多くの若い人々が参画しているのを見て自然保護や環境問題への熱意を感じることができました。

私自身は知識も経験も不十分な状態ですので、これから先輩の皆さんのお姿を見ながらじっくりと自分流に何ができるか考えつつ参加していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新入会員紹介

加藤和子（知多支部）

山登りが大好きな主婦です。ほとんど毎週山へ行っています。

中学生の頃、担任の先生が、時々、野外観察に連れて行ってくれました。（理科の先生でした。）その時、私の中に芽生えた自然への興味が、だんだんふくらんで、40数年経った今、自然観察指導員講習会を受けるまでになったのです。私の住んでいる団地は、周囲が比較的緑に恵まれています。団地の住民や子供たちと、この身近な自然を観察するところから始めたいと思っています。

皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

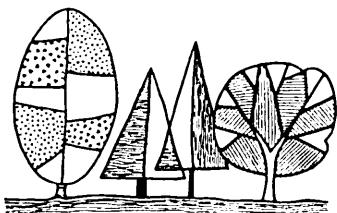
土場トシ子（西三河支部）

- 住所 豊田市千足町1-1-61
- 電話 0565-33-8520
- 職業 なし（主婦）
- 所属
 - ・豊田植物友の会
 - ・豊田天文クラブ
- やってみたいこと ネイチャーゲーム

『よろしくお願ひ致します。』

本村 健（西三河支部）

自然をもっと好きになり、もっと深く知りたいと思い会員になりました。仕事柄、平日中心の休日の為、どれだけ自然観察会に参加出来るかわかりませんが、よろしく御願いします。



福田 智（尾張支部）

- 職業 愛知県職員

- 特技 皿まわし

住んでいる所は、県外ですが、愛知県に勤務していますので、この度愛知県自然観察指導員連絡協議会に入会させていただきました。自然観察の経験は、ほとんどありませんが、今後、観察会になるべく参加して勉強しようと思っています。自然大好き人間ですのでよろしくお願ひします。



横田法子（名古屋支部）

十年前に“自然と親しむ喜び”と“多くの先輩の指導員”的の方々と出会い、この度会員として加入させて頂きました。楽しみながら知識を深めて行きたいと思って居りますので、よろしくご指導下さいませ。

“指導員”的腕章の重さを感じておりましたが、先日の歓迎会で先輩方のお人柄に接する事が出来、このような機会に出席する事で気負いも少し軽くなったように思いました。

今日からスタートだと思っております。よろしくお導き下さいますようお願い致します。ありがとうございました。

新入会員紹介

森下雅代（奥三河支部）

私、このたび会員になった森下という者です。先日の講習会では楽しい3日間をすごすことができありがとうございました。

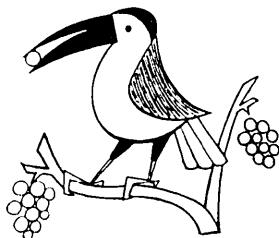
実は「指導員」になったものの何の実績も得意技があるわけでもないのでこれからが不安ですが私なりに勉強してがんばりたいです。

幸運なことに、私のまわりにはいろんな事を教えてくれる人や自然がいっぱいです。これからは、そういうものを図々しく利用していくつもりです。

これからの大活躍に乞うご期待！ といいたいところですが、あたたかく見守ってください。

<追記>

近況ですが、11月1日に大道芸Festival in 静岡を行ってきます。自然観察、山歩きも楽しいけど、大道芸も楽しいです。



上等トシ（尾張支部）

観察会に初めて足を踏み入れたのは定光寺です。5・6年前だったように思います。そこで初めて、ヤマイモのムカゴを知り、初めて食べました。歩こう会のようなつもりが思わぬ収穫物があり、うれしくなって、それ以来気ままに自分の都合に合わせて参加させてもらっています。毎回指導員の方の話に感心して聞いているばかりですが、自然とつき合う第一歩は「感じる心」といいますから・・・。ということで、まだ当分は感心組で参加させてもらいたいと思っています。宜しくお願ひします。

小谷充子（名古屋支部）

はじめまして、小谷充子です。

○好きなもの 山登り、コーヒー、野山の花

○嫌いなもの 蛇、夏のむし暑さ

○自然観察会との出会い

数年前、バードウォッチングに誘われて森林公園に行きました。その会では、野鳥のみならず、植物、昆虫、岩、水中生物等、何でも観てみようという事で、続けて出席しているうちに自然観察にはまり込んだという次第です。どうぞよろしく。

岡野幸平（名古屋支部）

現在19歳ですがもうすぐ20歳になります今まで10年位前から名東区の猪高緑地で活動しています。指導員になることは夢だったのでとても嬉しいです。どうぞ皆さんよろしくお願いします。

この他に次の方々が当会に加入されました。

秋田 貢、石井幸子、石田晴子、石原 弘、稻垣隆司、井城雅夫、岩本妙子、内田博昭、大木 充、大仲知樹、沖 章枝、加藤 進、神谷 理、河辺 勝、小山舜二、酒井強次、芝山勇一、新海洋子、高垣英明、内藤 亨、長岡 進、永島誉三、夏目敏之、長谷川 明、原田秋男、原田けいこ、樋口祐子、福島恭子、福永佳代、房崎秀樹、間瀬哉恵、水谷勝彦、村山昌子、矢田 崑雄、山田絹子、山本征弘、渡辺 敦



事務局から

[行事結果]

★自然観察指導員講習会

〔期日〕平成9年10月10～12日

〔場所〕愛知県民の森（鳳来町）

愛知県では11回目の講習会が、装いを新たにした県民の森で開かれ、64名の方が受講されました。協議会はこれを後援するとともに、地元講師として、大竹会長、中西副会長、高橋康夫さん、事務局の佐藤が参加しました。また、2日目の晩には各支部からも会員が駆けつけて、賑やかに最終日を迎えました。

講習会で多くの方が協議会に加入し、会員数も440名余になりました。

★基礎研修会「環境問題を考える」

〔期日〕平成9年10月25日

〔場所〕名古屋市公会堂

〔講師〕藤井敏夫さん (出席6名)

〔内容〕

今年作られた愛知県の環境基本計画の内容を中心に、環境の現状を説明してもらいました。環境問題は、新聞などで見る他には体系づけて学ぶ機会が少なく、まして行政が何を考えてどのように事業を進めているかを知る機会はあまりないようです。協議会としてもこうした研修を増やしたいとは思っていますが、いい方法があつたらご連絡ください。

☆合同部会

〔期日〕平成9年11月8日 13:30～16:25

〔場所〕名古屋市公会堂 (出席7名)

〔内容〕

協議会には、運営・普及・調査・編集の4つの部会がありますが、今回はそれを合同で開催したものです。

(1) 事業実施状況

事業計画にあった機関誌の年報を作るのは、

事務量の面と印刷費の縮小のため中止し、協議会の事業実績は別にまとめることとしました。

(2) 協議会の運営について

◎会費徴収

平成10年度は名古屋・尾張・知多・西三河支部では支部費と協議会費を同時に支部から依頼する予定です。

◎協議会の調査機能

自然の変化とか定例観察会で見た生物の状況等は、どこかへ集めて、データ整理しておくことが望ましいが、意外と方法が難しいため、今後の課題として検討していくこととなる。

◎協議会の自然保護活動

意見交換の状況はほぼ理事会の時と同様で、現在の会員の様子や事務局体制から直接行動することは難しいのではないかとの意見が多かつたが、自然に関するいろいろな問題で、会の意見を会員等に知らせていくこと、問題点について整理していくことは必要とされました。

◎協議会の組織について

支部の会員が増えたことから、支部の再編が必要とも考えられるが、当面は支部間及び支部を越えての会員の交流を図るなどの環境づくりが大切とされた。事務局体制については、特に意見は出されなかった。

(3) 平成10年度事業

事業は、基本的には今までと同様な内容で、ふるさと自然観察会（県委託）、シリーズ観察会（テーマ：里山）、定例自然観察会を中心に進める。研修会の一部は、支部の研修会と合同で進めることとする。調査では、ペイトラップを対象に行う案がある。

なお、ふるさと自然観察会などは、観察会のモデルとしての機能を持つようにすること、テキストの十分な利用について考えるべきなどの意見が出されました。

行 事 紹 内

来年から指導員としての知識を得るためのフォローアップ研修会を始めます。楽しみながら、他の支部の会員との交流をはかりながらの研修会としたいと思っています。

☆フォローアップ研修会「自然観察会の運営」（室内）

期日：平成10年1月10日（土） 13：30～16：00 講師：佐藤国彦

場所：中小企業センター7階第5会議室（名駅前、毎日ビル裏）

・観察会の運営について必要な事柄だけでなく、なぜ観察会をするか、これからの観察会に求められるもの、参加者との対応などにも触れてみたいと思います。

☆フォローアップ研修会「観察指導の仕方」（野外）

期日：平成10年3月1日（日） 9：30～12：00 講師：佐藤国彦・他

場所：東山公園（名古屋市千種区） 集合場所：植物園正門前 9：30

・観察会でのテーマの見つけ方、扱い方など、事例検討を行いたいと思います。

☆協議会の総会

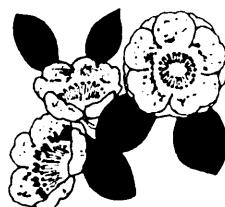
期日：平成10年3月22日（日） 詳細は、次回にご連絡します。

★問合せ先：いずれも佐藤（05617-3-5674）まで

図編集後記

地球が温暖化という癌にかかっています。この癌は今はまだ痛みを伴っていないので、癌にかかったと認知できずにいます。しかし、痛みを生じてきたときは手遅れにはしないでしょうか。温暖化防止京都会議に注目していますが、人類はなんて勝手なんだろう。人類の叡智とはなんだろうと思うこの頃です。

新しい年は、今年より、よい年になりますように。（近藤）



— 目 次 —

里山の管理	1
自然観察指導員の環境教育	4
環境教育ネット東海の紹介	5
アンケート④ 観察会で困ったこと	6
日本人と自然（3）	9
新入会員紹介	11
事務局から	14